

第2単元 時こくと時間のもともめ方①

問題番号	配点	解 答 (許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	45 (各15)	① (午前)10時10分 ② (午後)4時40分 ③ (午前)7時45分	知技 ○分後や○分前の時刻を求めることができる。	1目盛りの大きさ(この問題では10分)をとらえさせてから、考えさせるようにするとよい。数直線では理解が難しい児童には、時計を使って針を実際に動かすなどして考えさせるとよい。
②	15	50分(間)	知技 時刻と時刻の間の時間を求めることができる。	始まりと終わりの時刻が数直線上ではどこにあたるかを確認して、その間の時間を考えさせるようにする。
③	20	2時間10分	知技 時間に関する問題を解決することができる。	同じ単位どうしで計算し、1時間=60分を使って考えるとよいことに気づかせる。
④	20	(午後)4時20分	知技 時刻や時間に関する問題を解決することができる。	数直線の1目盛りの大きさをとらえてから、考えさせるようにするとよい。

第2単元 時こくと時間のもともめ方②

問題番号	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	2(時)35(分)、3(時)20(分)、45(分)	思判表 時計から時刻を読み取り、時間を求める問題をつくり、解決している。	始めた時刻と終わった時刻を示す時計を確認し、時刻を読ませる。時刻と場面を対応させ、時計の針を動かして、その間の時間をとらえさせるようにする。
②	① 分 ② 時間 ③ 秒	思判表 時間についての量感をもち、適切な単位を選択している。	1分、1秒などが実際どのくらいの長さであるのかを、ゲームなどを活用しながらとらえさせるようにする。

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	4問以上	3～2問	1～0問

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、感想とさらに学習したいことの2つの観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、感想とさらに学習したいことのどちらかの観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、感想やさらに学習したいことが書かれていない。